



# 善前小だより

No.4 平成29年7月号

6月27日 発行

住所 南区太田窪2500番地1

電話 882-7871 FAX 811-1329

ホームページ <http://zenmae-e.saitama-city.ed.jp>

「善力前進」ともに伸びよう 善前小 ～はずむ心 きたえる体 学ぼう創ろう「みどりの学園」～

## 「ささげ」のささやき

校長 やまだ なおひろ 山田 尚弘

ひまわりが、日に日に背を伸ばす季節となりました。地域の皆様や保護者の皆様におかれましては、お変わりなくご健勝のこととお慶び申し上げます。

6月16日の「ふれあい給食」、6月20日の南区一斉あいさつ運動など、地域の皆様や保護者の皆様のご理解とご協力で、子どもたちの心が潤う、充実した学校行事となりました。厚く御礼を申し上げます。

さて、7月は子どもたちにとって1学期の学習のまとめをする大切な時期です。暑さに負けてはいられない時期でもあります。



朝露の	ささげ畑を通ったら	ささげが <small>ささや</small> 低声いた
「どこにおちても俺等は <small>わしら</small> 生える	はなもさかせる	
みもむすぶ	そしてまあ	何てきれいな世界だろ」
		— <small>やまむら ぼちょう</small> 山村 暮鳥 『朝』 —

ここに示した詩は、山村暮鳥さんの詩集「万物節」にある「朝」という詩です。山村さんは、大正時代の有名な詩人であり、児童文学者でもあります。この詩の中にある「ささげ」とは「大角豆」と書き、暑さに強いことで知られるマメ科の1年生作物です。「ささげ」は、夏に淡い紫色やピンク色をした蝶のような形の花を咲かせ、秋に「さや」をつけ、その「さや」の中で豆をつくります。この豆の皮はとて強く、煮ても破れないことから、江戸時代には「あずき」の代わりに、この「ささげ」を使ってお赤飯を作っていたと言われていました。



このような「ささげ」ですから、山村さんは、「ささげは、どこに落ちてでも生きていくし、花を咲かせ実も結ぶ。」と詩の中で見事に表現しています。

私たち大人は、子どもたちが暑さに負けずに目標に向かって努力し、実を結んで目標を達成した時に、この「ささげ」のように「何てきれいな世界（学校）だろ」と思いっきり、囁（ささや）いてみたいものです。

本校は、学校・家庭・地域の連携をさらに強めながら、今後とも教職員のチームワーク（知恵の結集）で常に前進し、誇れる「ふるさと学校、善前小」を目指してまいります。何卒、よろしく願いいたします。

### 家庭でのご協力をお願いします。子どもの家庭学習（宿題）にご協力を！

- ◎ 家庭学習の確認（家族で、連絡帳をもとに今日の家庭学習〈宿題〉を確認しましょう!）
- ◎ 家庭学習への関与（子どもが家庭学習をする際に、何か一つでも関わらしましょう!）
- ◎ 家庭学習の見届け（家庭学習が終わったら、見届けと評価〈賞賛等〉をしましょう!）